[視察ノート] 国立美術史研究所（INHA）付属図書館のリニューアルオープンについて

黒澤美子

2016年12月、フランス国立図書館リシュリュー館内のラブルースト閲覧室（Salle Labrouste）に、国立美術史研究所（Institut National d'Histoire de l'Art、通称INHA）付属図書館が移転リオープンした。本稿は、その約半年後にあたる2017年7月に同施設を視察訪問した際に、文化財コレクション部門長ファビエンヌ・ケロー氏へ行ったヒアリングをもとに、そのリニューアルオープンについてまとめた報告記である。以下、前半でリニューアルに至るまでの歴史や経緯を、後半でリニューアル後の相違点について紹介する。

INHA付属図書館の成り立ちと2016年リニューアルオープンまでの経緯

INHA付属図書館の起源は19世紀末に遡り、パリで活躍した服飾デザイナー、ジャック・ドゥーセ（Jacques Doucet, 1853－1929）が収集した美術資料群にその端を発している。彼はデザイナーであるとともにコレクターでもあり、美術品、装飾品、家具などを収集する傍ら、当時美術専門の図書館がなかった状況を背景に図書資料を集め始めた[1]。そして約10年の間に10万点にのぼる資料群を集成しつつ、司書や大学教員の力を借りて目録を整備、1907年にパリ16区のスポンティーニ通りに私設の美術考古学図書館（Bibliothèque d'Art et d'Archéologie、通称BAA）を開室するに至ったのである[2]。所蔵資料には様々な国の出版物や古書、手稿、売り立て目録、書簡類といった様々な文書資料に加え、記録写真や、フランス国内外の作家による素描や版画も含まれていた。

1917年、ドゥーセはパリ大学にそのコレクションを寄贈し、資料群は18区のベリエ通りに、後には1936年に6区のミシュレ通りに、幾度かの引っ越しを繰り返す。そうしたなか1950年代から70年代にかけては特にスペース不足や資金不足といった苦難の時期を過ごしたというが、1980年代になると専門図書館の整備強化を標榜したフランス政府による財政援助の対象となり、体制を持ちなおした。

一方、ほぼ同時代となる1983年、美術史家アンドレ・シャステル（André Chastel, 1912－1990）により国立美術史研究所の創設が構想され[3]、事態は新たな展開をみせる[4]。国立美術史研究所の計画と議論が進められるなか、フランス国立図書館の新館（フランソワ・ミッテラン館）の建設と、主な蔵書が新館へと移管される計画が採択されたことを機に、空となる旧館（リシュリュー館）西棟ラブルースト閲覧室に、国立美術史研究所の図書館としてドゥーセのコレクションを含む複数の美術系図書館の所蔵資料を集約する計画が持ち上がったのである。その統合計画の一番手として、BAAに白羽の矢が立った[5]。

ラブルースト閲覧室は、当時の帝室図書館を改修するプロジェクトの一環として、1860年から1866年にかけて建築家アンリ・ラブルースト（Henri Labrouste, 1801－1875）により設計された歴史的建築物である[6]。鉄格子とガラス窓が特徴的なドーム型の天井と、そこから差し込む光がやわらかに反射するクリーム色の塗装が、当時電気設備のない閲覧室で読書に励む利用者たちを明るく照らし出していたという。ところが経年によりそのクリーム色は暗く汚れ、老朽化も進んでおり、安全性の観点から全面的な改修工事を避けて通れない状況であった。

そこで資料群はひとまず、同じリシュリュー館は東棟の楕円型閲覧室（Salle Ovale）に収められることとなり、1993年より段階的に資料の引っ越しがすすめられた。2001年に国立美術史研究所が開設され、2003年には正式に、BAAの所蔵資料がINHA付属図書館の所蔵資料となる。ともなって美術考古学図書館という名称も変更され、国立美術史研究所付属図書館（正式名称：Bibliothèque de l'Institut National d'Histoire de l'Art, Collections Jacques Doucet）が誕生したのである[7]。以降、

fig.1
ラブルースト閲覧室天井（2017年7月、筆者撮影）

2016年9月まで、同閲覧室にて所蔵資料が国内外の研究者に提供されてきたことは、日本の西洋美術史研究者の間にも馴染みの事実であろう[8]。

2000年代から2010年代前半にかけては、楕円型閲覧室を場として資料を閲覧に供する傍ら、ラブルースト閲覧室でINHA付属図書館を開館させるための準備が時間をかけて進められてきた[9]。改修が要されていた閲覧室は2009年から閉室となり、ジャン・フランソワ・ラニョー建築事務所により2011年から5年に渡って手がけられた大規模改修の結果、当時の姿を今に蘇らせた[10] (fig. 1)。そしてついに2016年9月より資料の移管集約が開始され、2016年12月15日、ジャック・ドゥーセが自らのコレクションをパリ大学に寄贈した記念すべき日に、現INHA付属図書館のリニューアルオープンが果たされたのである[11]。

リニューアル後の相違点

リニューアルオープン前後の相違として挙げられる第一の点は、別組織の所蔵資料統合によるコレクションの発展である。INHA付属図書館は先述のとおり、ジャック・ドゥーセ美術考古学図書館のほか、複数の美術系図書館のコレクション統合が形成の念頭に置かれていたものであり、この度の改装移転にともなっては、国立美術博物館中央図書館（Bibliothèque Centrale des Musées Nationaux、通称BCMN）の所蔵図書が追加統合された。

BCMNはルーヴル美術館に併設されていた図書館で、同美術館が18世紀後半に開館へと至った際、学芸員の調査研究活動のために創設された図書室をその原型とする[12]。古代から19世紀半ばまでの西洋美術を主題とする図書や文書資料約25万点を収蔵し、なかでも約1万2千点を数えるフランス国内外の所蔵品目録と、5万点以上におよぶ展覧会カタログが特筆的だ。また、美術館のニュースレターや、9万点以上におよぶ売り立て目録のコレクションも注目に値する。加えて写本等の貴重書コレクションにも恵まれている。

コレクションの引越作業は2016年1月から3月末にかけて行われ、1万4千5百箱、横並べすると4.5キロメートルにも及ぶという膨大な数の段ボールが、パリ郊外のマルヌ=ラ=ヴァレにある図書高等教育技術センター（Centre Technique du Livre de l'Enseignement Supérieur、通称CTLES）の書庫へと運ばれた。そこで一時保管されたのち、2016年12月のリオープンにあわせてリシュリュー館へ統合された。

統合された資料の一部は、文化財的価値のある貴重資料群である。そうした資料群は一般の図書とは区別され「Collections patrimoniales（以下、文化財コレクション）」と呼ばれる。元来ドゥーセが形成したコレクションにも文化財コレクションは豊富に含まれ、重要な地位を占め蔵書群に深みを与えていたが、このたびBCMNからの資料統合により、その厚みはいっそう増すこととなった。現在、INHA所蔵の文化財コレクションは大きく3つの種別に分けることができる。

1) 記録文書資料、手稿、自筆文書：アンドレ・シャステルを含む美術史家、考古学者、美術界著名人に由来するアーカイヴ資料146群、ドラクロワやゴッホといった作家の書簡や手稿等ファイル資料約800件、ピサロやマネを含む、作家から批評家への手紙4万5千点あまり。
2) 稀少古書・古雑誌：17世紀に遡る世界最大の売り立て目録群を含む稀少古書2万点以上、展覧会招待券などのエフェメラ資料9万6千点以上。
3) 写真、版画素描作品：版画や素描3万点あまり。ジャック・ドゥーセが購入した19世紀、20世紀の作品（マネ、ドガ、トゥールーズ=ロートレック、ファン・ゴッホ、マティス）や、浮世絵、サロン・デ・サンのポスターコレクション、写真資料約75万点。

またBCMNから移管された図書のうち所蔵品目録や展覧会カタログについては、開架資料群の重要な一部分として利用者に供されるようになったことを付け加えたい。BCMN資料群の移管統合により、INHAはコレクションが増補されるという恩恵を受けたが、BCMNの資料群にとっては、より多く活用される機会と環境が与えられたとも言えるのである。

第二の大きな変化は、開架資料の大幅な増加である。現在INHA付属図書館の所蔵資料は約170万点にのぼるが、そのなかの15万点が開架資料として配架されている。（うち3万5千点は逐次刊行物。）開架資料の配架場所は、ラブルースト閲覧室(fig. 2)ならびに直結の中央書庫（fig. 3, 4）で、閲覧室には236席（うち、貴重書閲覧席20席）、中央書庫には82席の座席が整備されている。なお、国立図書館の版画写真部門が同閲覧室の一部をしめており、専用閲覧席が56席確保されている。中央書庫内には10人まで着席可能なグループワーキングスペースが2部屋用意されており、大学の授業単位での利用などが歓迎されている。

閉架から開架となった資料については、それまでスペースを有効利用するためサイズごとに配架

fig.2
ラブルースト閲覧室（2017年7月、筆者撮影）

fig.3
中央書庫 通路部分と閲覧席（2017年7月、筆者撮影）

fig.4
中央書庫 雑誌書架（2017年7月、筆者撮影）

されていた状態から、利用者が直接探索して手に取るというニーズにあわせ、主題ごとにまとめて配架されることとなった。アメリカ議会図書館分類表（LCC）を基につくられた分類体系に沿って、大きく下記のテーマごとに分類分けされ、背ラベルの色分けなどにより可視性も高められている[13]。

・美術一般資料（Corpus Art, généralités: 参考書、批評や美術史の研究書等）
・作家資料（Corpus Artistes: 作家毎のカタログレゾネや展覧会カタログ）
・芸術各分野資料（Corpus Beaux-Arts: 建築、彫刻、絵画、工芸など分野毎の研究書）
・美術館・博物館資料（Corpus Musées: 美術館や博物館の所蔵品目録等）
・考古地域資料（Corpus Archéologie et Topographie: 記念碑や教会建築など所在地別資料。）
・逐次刊行物（Périodiques）

こうした分類の見直しと再装備には、じつに10年におよぶ準備作業期間が費やされたという。

開架資料は、無料の利用登録を済ませた利用者であれば誰でも自由に見て回り、手に取ることができる。なお、利用者カードには年間カードと月間カードがあり、修士課程1年生以上の学生や大学教師、博物館職員、図書館員、画廊職員等に加え、国際博物館会議（International Council of Museums、通称ICOM）参加館職員や、国際美術評論家連盟（Association Internationale des Critiques d'Art、通称AICA）の会員が、年間カードを作成する資格を有する。それにあてはまらない18歳以上の利用者は、月間カードを申請することにより利用が可能となる。開室時間は月曜日から土曜日の9時から18時半となっている。ただし、文化財コレクションの閲覧は14時から18時の間に限られている。

最後に第三の変更点として挙げたいのが、レファレンスサービスや教育普及活動など、対外サービスのさらなる充実化だ。所蔵資料や電子リソースの紹介と利用案内は当然のこと、個別に様々な相談を受け付ける体制も整っている。例えば展覧会、学術講演会やシンポジウムの企画、それにまつわる資料探索や調査活動などについて相談することが可能だという。

インターネットを通じたサービスとしては、電子化資料を公開するプラットフォーム、INHA電子図書館[14]の充実もめざましい。現在同サイトでは、INHAの所蔵資料と国立高等美術学校（École Nationale Supérieure des Beaux-Arts、通称ENSBA）所蔵の資料から、約1万9千件が閲覧可能となっている。内容は随時追加され、最新情報はホームページのみならず、フェイスブック[15]やツイッター[16]、ブログ[17]などのSNSツールで積極的に配信されているため、参照されたい。

加えて、毎週土曜日の夕方にはラブルースト閲覧室と中央書庫の建築ツアーを開催したり、リニ

ューアルを記念した展覧会[18]を開催したりするなど、施設や所蔵資料についての情報を利用者へ発信する催し物の企画にも積極的である。毎月ラブルースト閲覧室を舞台に研究者を招き、近著についてゲストと対談するトークイベント「Dialogues de la salle Labrouste[19]」については、組織の対外的なアピールを超えて、美術分野における研究活動ならびに出版活動の活性化や、様々な人的交流に貢献する役割までをも果たしていると言えるのではないだろうか。

現在INHA付属図書館には管理部門に加え、開発部門、目録作成部門、保存部門、コンピューター部門、公共サービス部門、特別書部門が設置されており、各部門に6名から12名、全体で約75名の常勤スタッフが配属されている。そうした編成のなかで最も大きな部門が、公共サービス部門だという。このことからも、収集や保存だけでなく利用者へのサービスに力を入れていることが見てとれる。

BCMNからの資料統合によるコレクションの増補、蔵書の大規模な開架化、そして対外活動への注力といった、2016年末のリニューアルオープンによる変革は、「コレクションの卓越性」、「所蔵資料への自由なアクセス」、「公共への配慮」というINHAの三原則[20]に、まさに呼応すると言えよう。美術研究の重要拠点として国内外の研究者に貢献し、美術図書館としても牽引的な立場にあるINHA付属図書館の動向に今後も注視しつつ、引き続きその取り組みや姿勢を学び、立場や規模の違いは承知ながら、当組織における資料の集成とその活用について模索する手がかりとしていきたい。

最後に、本稿のもととなる貴重なヒアリングの機会をご提供くださった、INHAコレクション上級司書のクリスチャン・フェレー氏、ならびに文化財コレクション部門長のファビエンヌ・ケロー氏に、心より感謝申しあげます。また、参考文献についてご教示をくださった日仏会館図書室司書の清水裕子氏にも、厚くお礼申し上げます。

註

1) ドゥーセについては、ジャック・ドゥーセ文学図書館上級司書のフランソワ・シャポン氏の右記研究書を参照。Chapon, François, *C'était Jacques Doucet*, Fayard, 2006.（1984年に*Mystère et Splendeurs de Jacques Doucet. 1853-1929*というタイトルで刊行され、1996年に *Jacques Doucet ou l'art du mécénat* というタイトルで改版されたものの第3版。）また、美術品収集活動や様々な芸術家たちとの交流に関しては右記文献に詳しい。Georgel, Chantal, dir., *Jacques Doucet: collectionneur et mécène*, Les Arts Décoratifs, Institut national d'histoire de l'art, 2016.

2) ドゥーセが収集した文学関係の書籍群についてはジャック・ドゥーセ文学図書館（Bibliothèque littéraire Jacques-Doucet、パリ5区）の蔵書として現在に至る。またドゥーセが収集した美術品の一部はアヴィニョンにあるアングラドン美術館（Musée Angladon - Collection Jacques Doucet）の開館（1996年）に結びついている。

3) 政府への提言内容や当時の構想については、右記文献に報告がされている。"Pour un Institut National d'Histoire de l'Art," *Revue de L'Art*, n° 63, 1984, pp.5-16.

4) 1986年には検討会の組織と議論が開始されている。INHA創設をめぐる1980年代の主要な出来事はINHAの機関誌*Histoire de l'art*, N.1/2ならびにN.3に時系列でまとめられている。"Informations," *Histoire de L'Art*, N.1/2, juin 1988, pp.160-161 ; "Informations," *Histoire de L'Art*, N.3, Octobre 1988, p.130.

5) 1990年代には各美術専門誌上でもINHAの計画や検討状況について度々言及がなされている。例えば右記を参照。Elam, Caroline, "Editorial: an institute for art history in Paris?," *Burlington Magazine*, Vol. 135, October 1993, p.667 ; Encrevé, Pierre, "Editorial: l'Institut international d'histoire des arts," *Revue de L'Art*, n° 99, 1993, pp.5-7 ; Laclotte, Michel, "Editorial: L'Institut national d'histoire de l'art," *Revue de L'Art*, n° 112, 1996, pp.5-8.

6) ラブルーストについては複数の研究書や研究論文が存在する。やや古いものの、代表的かつ和訳がでている研究書として右記を参照。Saddy, Pierre, *Henri Labrouste, architecte, 1801-1875*, Caisse nationale des monuments historiques et des sites, 1977.（ピエール・サディ、福田晴虔編『建築家アンリ・ラブルースト』丹羽和彦訳、中央公論美術出版、2014年。）また、2012年から2013年にかけてパリの建築遺産博物館ならびにニューヨークのMoMAで開催された展覧会「アンリ・ラブルースト：光に向かう構造（Labrouste architecte, la structure mise en lumière）」のカタログにも、研究論文や多数の図版資料が収録されている。Bélier, Corinne, *Labrouste (1801-1875), architecte : la structure mise en lumière*, N. Chaudun, 2012.

7) BAAの変遷やINHA付属図書館の誕生に関しては、いくつかの書籍や美術専門誌にまとめられている。本稿では冒頭先述のヒアリング内容に加え、とく

に右記文献を参照した。Therrien, Lyne, "Historien de l'art et bibliothèques des itinéraires croisés," in Picot, Nicole, dir., *Arts en bibliothèques*, Éditions du cercle de la librairie, 2003, pp.35-46 ; Buxtof, Anne-Élisabeth, "Towards the New Library of the Institut national d'histoire de l'art," *Bibliothek Forschung und Praxis* [Online], 39 (3), 2015, pp.312-319, URL: https://www.degruyter.com/downloadpdf/j/bfup.2015.39.issue-3/bfp-2015-0037/bfp-2015-0037.pdf, DOI: https://doi.org/10.1515/bfp-2015-0037（最終アクセス：2018年2月12日）; Anne-Élisabeth Buxtorf, Pascale Gillet, Catherine Granger, et Anne-Solène Rolland, "Bibliothèques de musées, bibliothèques universitaires : des collections au service de l'histoire de l'art," *Perspective* [Online], 2 | 2016, pp.53-62, URL: http://journals.openedition.org/perspective/6826, DOI: 10.4000/perspective.6826（最終アクセス：2018年2月12日）

8) BAAの時代よりドゥーセのコレクションは折に触れ日本の美術史研究者（とくにフランス美術分野）に紹介されてきた。例えば以下が挙げられる。「フランス美術研究者のためのパリ案内」『日仏美術学会会報』2号、1982年10月、57頁。楕円型閲覧室を利用していた時期のINHA付属図書館については、右記文献に概要がまとめられている。袴田紘代「国立美術史研究所(INHA)付属図書館：近現代美術史学を支える中枢機関として」『日仏歴史学会会報』27号、2012年6月、58-61頁。

9) 当時の進捗状況や計画を報告する記事としては以下を参照。Poulain, Martine, "A major art library in preparation: the Library of the Institut national d'histoire de l'art," *Art Libraries Journal*, Vol. 30, No. 2, 2005, pp.4-16 ; "INHA: a future for art history in France," *Burlington Magazine*, Vol. 148, May 2006, p.311.

10) リシュリュー館の改修や歴史については以下文献を参照。Aurélien Conraux, Anne-Sophie Haquin et Christine Mengin, dir., *Richelieu. Quatre siècles d'histoire architecturale au cœur de Paris*, Bibliothèque nationale de France, Institut national d'histoire de l'art, 2017.

11) リニューアルオープンを記念して美術雑誌 *Connaissance des Arts*ではINHA特集が組まれている。施設や所蔵品の紹介が簡潔にまとめられているので参照されたい。*La Bibliothèque de l'Institut national d'histoire de l'art. Connaissance des Arts*, Hors-série, n° 726, 2017. 4.

12) BCMNの歴史とINHAへの移管統合については前掲の文献も参照。移管統合後のルーヴル美術館付属図書室についても言及がある。Anne-Élisabeth Buxtorf, et. al. (2016), op. cit., pp.62-72.

13) INHA付属図書館の分類方法選択については以下の文献に詳細が報告されている。De Cours, Isabelle, "Choosing a classification scheme for the INHA library in Paris," *Art Libraries Journal*, Vol. 27, No. 1, 2002, pp.23-26.

14) Bibliothèque numérique de l'INHA, <http://bibliotheque-numerique.inha.fr/>（最終アクセス：2018年2月12日）

15) INHA付属図書館フェイスブックアカウント, <https://www.facebook.com/BibliothequeInha>（最終アクセス：2018年2月12日）

16) INHA付属図書館ツイッターアカウント, <https://twitter.com/inha_bib>（最終アクセス：2018年2月12日）

17) INHA付属図書館ブログ, <https://blog.bibliotheque.inha.fr/fr/index.html>（最終アクセス：2018年2月12日）

18) 展覧会名「美術史のための図書館（Une bibliothèque pour l'histoire de l'art）」隣接の施設ギャラリー・コルベールにて、2017年1月13日より4月1日まで開催。

19) 詳しくは以下の公式ページを参照。"Dialogues de la salle Labrouste", <https://www.inha.fr/fr/recherche/programmation-scientifique/en-2017-2018/les-dialogues-de-la-salle-labrouste.html>（最終アクセス：2018年2月12日）

20) Buxtof, Anne-Élisabeth (2015), op. cit., pp.315-316.